

中田商事



中田社長

が引き上げられたことを受けての決断だった。

中田社長は「導入理由はコンプライアンス（法令順守）だった。不安要素をできるだけ排除し、前向きになれる環境を作りたかった。考課制度と併用し、過去の給与データも活用するなど、複合的に取り組んだ。従業員も納得し、2年間で完全に定着した」と振り返る。

トラック運送事業の場合、時間制賃金の完全導入は難しいとされてきた。いわば逆転の発想だが、「時

時間制賃金が定着

セミナーで成功事例発表

間給の導入で原価計算がしやすくなった。時間や距離などの数値はデジタルタコグラフのデータを活用すればいい。原価計算をベース

氏は2月24日、IT（情報技術）関連企業が主催するロジスティクスセミナーに招かれ、時間制賃金導入について事例発表した。

5月28日には、東北、関西、九州などのトラック事業者10人が、時間制賃金を学ぼうと中田商事本社を訪れた。中田氏はパワーポイントを駆使し、自社の賃金システムを詳細に説明したという。

「同業者の関心の高さに正直、驚いている」とした上で、「運送会社はそれぞれ規模や業態が大きく異なる。我が社の時間制賃金が全てに当てはまるわけではない。個々の会社の実情に合わせてカスタマイズをしてほしい」とアドバイスする。

来年1月には、NPO法人（特定非営利活動法人）日本物流研究グループ（堀田佳秀理事長）のセミナーで、「時間賃金制の革新的経営」と題し講演することになった。中田氏は「時間制賃金を入り口に、新しい発想が生まれれば」と話している。



に、顧客に対し積極的に提案できるようにした」。

「同業者の関心の高さに正直、驚いている」とした上で、「運送会社はそれぞれ規模や業態が大きく異なる。我が社の時間制賃金が全てに当てはまるわけではない。個々の会社の実情に合わせてカスタマイズをしてほしい」とアドバイスする。

来年1月には、NPO法人（特定非営利活動法人）日本物流研究グループ（堀田佳秀理事長）のセミナーで、「時間賃金制の革新的経営」と題し講演することになった。中田氏は「時間制賃金を入り口に、新しい発想が生まれれば」と話している。

その取り組みが、いま全国のトラック運送事業者から注目を集めている。中田

れ規模や業態が大きく異なる。我が社の時間制賃金が全てに当てはまるわけではない。個々の会社の実情に合わせてカスタマイズをしてほしい」とアドバイスする。

来年1月には、NPO法人（特定非営利活動法人）日本物流研究グループ（堀田佳秀理事長）のセミナーで、「時間賃金制の革新的経営」と題し講演することになった。中田氏は「時間制賃金を入り口に、新しい発想が生まれれば」と話している。